

大鹿スケッチ

— 第36号 —
2013年 10月
〈 発信者 〉
前志満 くみ
〈 提供 〉
旅舎 右馬允

赤石山脈の3km級も初冠雪。いよいよ冬の気配がしてきました。里では紅葉が真つ盛り。谷深いオシカ谷を少し高いところから見渡してみると幾重にも重なる山並みは錦の十二単を着ているかのようです。今年は暖かかったせいかゆっくりとしたペースで紅葉が降りてきています。そんな風景を楽しめるのもあとわずか、秋はあまりにも早く駆け抜け、冬のカーテンが間もなく引かれることでしょう。

秋の野に出でて
見れば様々な色彩と造形にあふれている。夏の旺盛だった植物の子供たちはそれぞれに個性だ

当時の都から逃れてきた高貴なかが御所平(釜沢)に居を構え暮らしていました。その人は、山深い谷間の生活の合間に都の方角を臨んで「ああ、あの山がなかったら都が眺めることができたらのに・・・」といううな歌を詠んでいます。「あの山」というのが釜沢にある標高二千mほどの「除山」です。先日、村の有志で登ってきましたがまさに山頂は覗めない山でした。しかしその道中には荒川三山、赤石岳、聖岳の絶景スポットがあり思わず歓声！宗良親王にも見せてあげたかったな。

おすすめの

「野の髪飾り」

をあなたに

ノブドウ:

色彩の多彩さには毎年、息をのむ。実は毒だから気をつけてね。

ヘクソカズラ:

名前の響きの衝撃はあるが晩秋にかけて鉛色の美しい実をつける。熟した実をあか切れやしもやけにつけて癒すといった民間療法が知られている。

アオツツラフジ:

春の新芽の出かたもハート型で愛らしい。実は深い青色でたわわに実る。名前の如く冬場にはツツラをおる素材として昔から使われてきた植物だ。



住民の不安はお座なりに
進むりニア中央新幹線計画
JR東海は十月九日、十四日の
両日、リニア中央新幹線の環境
影響評価(アセスメント)準備
書の公会に伴う説明会を大鹿村
の交流センターで行い住民を中
心に合せて約二七〇人余りが
参加しました。JR東海は、準
備書の概要についてスクリー
ンで約五〇分の解説を行った後、
質疑へ。より多くの人が発言
できるようにとの配慮で一人三
までの質問としました。
大河原地区にはトンネル掘削
のため非常口となる作業用トン
ネルが四カ所設けられるほか、
変電施設が設けられる計画で
す。長野県内では出る残土九五
〇mのうち村内で出る残土は二
九八万m。しかし長野県では
置き場がまだ決まっていな
いで準備書には詳しいことは
記載されていません。植生学
の専門家によると、環境影
響は工事の直接的な影響より
土の持ち運びによる二次的な
響の方が大きいといえます。現
況では環境影響は事後評価とい
うことになりました。



写真説明: 一方的に説明会を終
らせるJR東海に詰め寄る住民

通過するということ事になり
す。非常口が二カ所設けら
れる釜沢地区までの道のり
は、乗用車が一台通れるく
の道幅で、すれ違いに
は非常にひやひやします。
地元住民の生活はどうなる
のでしょうか?ましてや観
光への考慮も感じられませ
ん。また、「水源調査」につ
いて河川流量が二割減少す
る予測についてJR東海は
「影響は小さい」としてい
ます。山梨リニア実験線沿
線では、枯れることがない
とされた水源が枯渇した
り、各地で水量の減少や枯
渇が起きているにも関わら
ず、この言い分には啞然と
す。全体説明や質疑
応答でも「影響を最小限に
するよう努める」「低減す
る」「影響が少ないと予測す
る」「適切な方法に基づい
て」などの言葉が目立ちま
す。住民の立場を無視し
た根拠のない評価にひとつ
づつ疑問を抱く住民は少な
くありません。現況では環
境影響は事後評価とい
うことになりました。

「30キロの収穫袋が今年
は去年より20袋少ない」と
紙谷さん。今年のコメの取
れは残念ながら例年よりか
なり少なかったようです。
年々増えてきているヒエの
除去が間に合わなくなつて
きているというのがひとつ
には言えると思います。



この季節、村の家々の軒下では
千し柿や大根、しし唐が干されて
います。無彩色の季節に向か
ってひと時カラフルに彩られ
ます。イ
淡々とした
日々の中に熱
く響く「鼓動
」をお届けし
ます。

この季節、村の家々の軒下では千し柿や大根、しし唐が干されています。無彩色の季節に向かっひと時カラフルに彩られます。日々の中に熱く響く「鼓動」をお届けします。自然の中の小さな生き物は人間には感じ取れない何かを感じ取って生活しているのそれを観察することを周知の環境の変化を育んできたのが日本人の生活ではないでしょうか。解剖学者の養老孟司さんは2002年1月8日付の朝日新聞にこんな言葉を綴っています「(日本は)いまだに国土の7割が森林で、歴史上の大地震の5%、大噴火の20%が起きる国です。自然は思うようにならな」と肌にしみている。だから、自然に手を入れて折り合いをつけてきた。里山的な生活です。こうした伝統的な生き方を取り戻さなければいけない。自分はどうな生き方を取り戻さなければいけないのか。脳で考えるのではなく、体で感じて謙虚に生きる方法を取り戻さないと、本当に手遅れになります。『誰しもが感じていることだけどなかなか動けないのが今の世の中なのかもしれない。しかし目の前には問題を見えぬふりをやり過ぎず卑怯な大人にはなりたくない。水、緑、大地は人間にとって根源的な資源であり、尊い。』

大鹿 HeatBeat ~大鹿の人々~ 第32回 紙谷 正 さん (87)